

韓国東岸におけるミズダコ流し釣の擬餌釣具改良

安 永一（韓国 江原道立大学）・有元貴文（海洋大）

【目的】韓国東岸ではミズダコが籠網と流し釣で漁獲されており、1000-1500 円/Kg の高価格重要種として適切な漁業管理が要求されている。そこで、操業場所や時間区分で2つの漁業種を管理し、さらに、流し釣については鉛錘の環境害を減少させて「環境への優しさ」を向上させることが期待された。そのためには、新型漁具として漁獲効果を高め、漁業者が受け入れることも必要であり、2年間にわたる漁具改良試験を行ったので報告する。

【方法】現在使われている釣具は大型の鉛錘を利用し、これに針金製の拘引具を取り付け、餌として大量の豚脂を使っている。この錘の材質を変更し、鉛を使わずに大きさと重量を合わせたものを作成した。また、餌としてはプラスチック製のエビ模型を使い、その中に少量の豚脂や魚肉を使うように改良した。その際に、韓国各地、そして道東地区の実態について調査し、エビ模型の形状や色彩、そして錘の大きさや色彩について検討した。また、ミズダコを使った水槽実験を行って行動を観察し、擬餌釣具全体の流れによる移動性能を確認した。試作品については漁業者に依頼して操業試験を実施し、従来型と漁獲効果を比較した。

【結果】擬餌釣具の鉛錘を改良して環境に優しい漁具とすることを目的としたが、実際に漁業者が従来型の漁具から新型漁具へ切り替えるためには、漁獲性能の向上と使い勝手の良さが要求される。操業試験の結果、新型漁具は同等以上の漁獲成果をあげ、また大型のミズダコを漁獲する傾向が得られた。この結果をもとに、従来型鉛錘から新型漁具への交換に江原道からの補助金が適用され、韓国他地域への普及に向けて動き始めている。